

第8期 令和7年度 第1回青少年育成委員会

日時 令和7年5月11日（日）午前10時から

会場 豊田市青少年センター 交流室

次 第

1 委嘱状授与

2 主催者あいさつ

3 委員・オブザーバー・事務局紹介

4 議題

- (1) 令和6年度 事業報告について
- (2) 令和7年度 事業計画について
- (3) 令和7年度 モニタリング事業について
- (4) 令和7年度 青少年表彰について

5 その他

- (1) 令和6年度第2回青少年育成委員会の日程について

【候補日・時間】 9月20日（土） 午前10時／午後2時

10月11日（土） 午前10時／午後2時

10月12日（日） 午前10時／午後2時

会場／青少年センター

内容／後期モニタリング事業・令和8年度事業計画（案）など

- (2) 委員会会議録の確認と公開について

- ・会議録を財団の情報公開規則及び情報公開要項に準じてホームページ上で公開する
- ・市民等に不利益となる情報や業務の適正な遂行に支障をきたす内容は、公開しない内容も有りうるものとする
- ・委員等の個人名は公開しない（議事中の発言等）
- ・会議録案は次回委員会にて確認する時間を設ける

- (3) 施設からの諸連絡等

【目次】

議題（１）令和６年度 事業報告について……………	別冊
議題（２）令和７年度 事業計画について……………	別冊
議題（３）令和７年度 モニタリング事業について……………	別冊
議題（４）令和７年度 青少年表彰について……………	別冊
議題（５）委員会会議録の確認と公開について……………	資料なし

公益財団法人豊田市文化振興財団 第8期 青少年育成委員会

令和7年5月4日現在

【委員】（五十音順）

区分	氏 名	役職・所属	備考
学識経験者	宇井 一弘	豊田市教育研究会 理科部会長	新任
	大村 恵	愛知教育大学 特別教授	
	白川 陽一	名城大学社会連携センターPLAT 社会連携アドバイザー	新任
	西本 昌司	愛知大学 教授	新任
市民代表	斉藤 茂美	ボーイスカウト豊田地区協議会 地区委員長	
	野畑 清敬	愛知県キャンプ協会 理事	
	ひえだ 稗田 猛	青少年育成 市民団体	新任

（委員7名／任期：令和9年3月まで）

【オブザーバー】

杉山 基明	公益財団法人豊田市文化振興財団 副理事長	
藤本 聡	公益財団法人豊田市文化振興財団 専務理事	
近藤 啓史	豊田市こども・若者部 こども・若者政策課 課長	新任
藤田 憲彦	豊田市魅力創造部 学び体験推進課 課長	新任

【事務局】

永坂 正和	公益財団法人豊田市文化振興財団青少年部長	新任
近藤 雅子	青少年センター 所長	新任
松浦 友洋	〃 副所長	
山中 浩之	総合野外センター 所長	
山村 聡志	〃 副所長	
荘田 元宣	産業文化センター 所長	新任
中根 史義	〃 副所長	
水野 路子	〃 係長	

【着座表】（敬称略）

委員長

副委員長

委員
大村 恵

委員
宇井一弘

委員
白川陽一

委員
西本昌司

委員
斉藤茂美

委員
野畑清敬

委員
稗田 猛

オブザーバー

専務理事	副理事長	こども・若者政策課長	学び体験推進課長
藤本 聡	杉山基明	近藤啓史	藤田憲彦

事務局

青少年部長	青少年センター	総合野外センター	産業文化センター
永坂正和	所長 近藤雅子	所長 山中浩之	所長 荘田元宣（欠席）
	副所長 松浦友洋	副所長 山村聡志	副所長 中根史義
			係長 水野路子

令和６年度 事業報告書（青少年部抜粋版）

1 総括

（１）青少年の健全な育成の推進

ア 「第３次公益経営戦略ビジョン」の重点取組施策である「育成段階に応じた事業展開」、「多様な主体との共働の推進」及び「活躍機会の提供」を推進し、青少年の健全育成に取り組みました。

また、ＳＤＧｓの目標達成に向けて豊田市と連携した活動に取り組みました。

更に、新型コロナウイルス感染症の５類変更後も、これまでの経験や実績を生かして、感染拡大防止に柔軟に対応し、安全安心な施設運営と慎重な事業展開を図りました。

イ 青少年センターでは、事業再構築３年目にあたり、「若者の社会参加の促進」、「若者の自立支援」、「居場所づくり」及び「情報発信」を４本柱として推進し、事業を発展的につなげるための総括の年とし、事業成果の更なる上積みを図り、意欲ある若者を育てました。また、令和５年度に改修した１階サロンを、若者の活動・発表の場として積極的に活用しました。

ウ 総合野外センターでは、豊田市子ども条例で子どもが豊かに育つ権利として自然に親しむことが保障されていることを特に意識して、自然環境の中での野外活動を通し、体験、学び、気づきの機会と場を提供して、青少年の健全な育成と指導者の技量向上支援に努めました。そのために山遊び初心者から冒険少年まで、それぞれの“わくわく”を満たす事業を実施しました。

エ 産業文化センター（とよた科学体験館）では、豊田市子ども条例に基づき、子どもの意見を聴き、誰もが新しい発見と驚きに出会い、科学を身近に感じ楽しめるよう、「科学を文化として楽しもうプロジェクト」事業を推進しました。また、今後の大規模改修工事について、市と連携を密にして、市民や関係者にとってよりよい施設運営につながるよう具体的な計画の検討を進めました。

2 事業報告

（１）青少年育成施設等を活用して、青少年の社会性と豊かな情操を養う機会と場を提供する事業（定款第４条第５号事業）

子どもたちを取り巻く社会環境が大きく変化する中、青少年の健全な育成を図るためには、家庭、学校及び地域社会が連携を密にし、子どもたちの自立と社会参加を促す努力を重ねることが求められています。青少年育成施設等を活用して青少年の健やかな成長を育むため、様々な体験活動を実施し、あわせて自立支援・相談体制を強化し、青少年の社会性と豊かな情操を養う機会と場を提供しました。

●青少年の健全育成を図るための機会の提供を行う事業

事業数 59事業

社会参加バンク、活動支援事業、若者応援事業、種まき事業、若者によるまちづくり提案事業、サークル・グループ文化祭（ほか（青少年センター）
六所山で泊まろう、親子自然体験塾、家族で六所山 day、保護者のための野外活動体験会、小中学校等の野外活動の直接指導（ほか（総合野外センター）
いろいろプラスネタリウム、サイエンスセミナー、自然科学体験教室、レッツ・エンジョイ・サイエンス（ほか（産業文化センター）

（２）青少年音楽団体の運営及び青少年団体に対する助言その他の支援を行う事業 （定款第4条第6号事業）

青少年の健やかな成長を育むため、豊田市青少年音楽3団体、子ども会、ボーイスカウト、ガールスカウトなどの青少年団体の運営を側面的に支援し、活動の活性化をサポートしました。

●青少年団体の育成支援を行う事業

事業数 3事業

豊田市青少年団体傷害互助会事業（青少年センター）

レクリエーション団体指導者派遣（青少年センター）

子ども会事務支援（青少年センター）

3 会議

青少年育成委員会

名 称	期 日	会 場	内 容
第1回 青少年育成 委員会	5月26日	青少年センター 会議室A	令和5年度事業報告について 令和6年度事業計画について 令和6年度モニタリング事業について 令和6年度青少年表彰について（ほか
第2回 青少年育成 委員会	10月5日		令和6年度モニタリング事業の評価について 令和7年度事業計画について（ほか
第3回 青少年育成 委員会	2月16日		令和6年度モニタリング事業の評価について 令和7年度事業計画について（ほか

4 令和6年度事業報告の附属明細書

【青少年センター】

令和4年度に見直しを実施した事業が3年目を迎え、4年目以降へ発展的に繋げるための総括を実施しました。

外部団体や民間事業者との共働など、これまで培ってきた当センターのネットワークを駆使し、様々なステークホルダーや豊田市の部署等と連携を強化することで、若者支援のハブ機能を担う施設を目指し、若者の幸福や成長を追求しました。そのため、若者の社会参加や課題解決に向けた取組を支援し、若者や活動団体の積極的な自主活動を促進しました。

また、青少年育成委員会の事業評価や利用者、参加者及び社会的な各ニーズ並びにSDGsの達成目標を意識した施設運営に努め、公共施設の社会的使命を追求しました。

(1) 事業

【若者の社会参加の促進】

若者が社会に関わる意識を育てるための事業を段階的かつ幅広く展開しました。20代・30代の若者には自らの技量を使い自らの意思で挑戦する「まちづくり提案事業」や「サークル・グループ文化祭」、積極的に社会に関わる世代形成のため「学生交流塾」「若者倶楽部」の事業を実施しました。また、高校生・大学生が社会に接する機会としてボランティア事業を実施しました。

【若者の自立支援】

教育格差による貧困の連鎖解消を目指す学習支援事業を愛知県教育委員会と連携して継続実施しました。また、県との連携がない期間にも同様の学習支援事業を自主開催し、切れ目ない学習支援を実現しました。さらに若者の社会的自立を促す事業、若者たちの自主的な活動を幅広くPRする事業の支援を行いました。

【居場所づくり】

令和5年度末に改修されたサロンや従来からの施設を活用し、個人単位の自主学習や自主練習、仲間同士の親睦など様々な若者のニーズに応えるためにLINEを使った個人登録を推奨し、登録者に対してSNSで施設情報を素早く配信するなど利用者の満足度向上を目指しました。

【情報発信】

ボランティアの募集や各種イベント・事業・フリー開放（空き部屋活用）など、若者に有益な情報をSNS、メールマガジン及びホームページを使って配信しました。また、SNSで青少年センターの日常の様子を随時配信するなど、利用者が一層施設に対する親近感を抱かせる試みも行いました。

(2) 施設運営

自主定期点検マニュアルに基づいた施設管理をはじめ、公共施設に必要な訓練

の実施、施設使用料の市外倍額やキャッシュレス決済への素早い適応、利用者ニーズを把握する利用者懇談会・アンケートの実施など、常に安全・安心・快適な利用環境の提供を目指し、効率的な管理運営でサービスの向上に努めました。また、災害や事故に備えた危機管理意識を持ち、異常の早期発見・早期対応など予防保全に努めるなど、日常管理の積み重ねを安定的で使いやすい施設運営につなげました。

(3) 事業一覧

※事業区分について：自主－当財団独自の事業、共催－豊田市との共催事業、
受託－豊田市等から委託を受けて実施する事業

【青少年育成施設等を活用して、青少年の社会性と豊かな情操を養う機会と場を提供する事業】

事業名	期日	人数	内 容	事業区分
【社会参加】 インターンシップ事業	夏期・春期	延べ 109人	豊田市及び近郊の高校・大学と連携し、就業体験等を通じて働くことや公共施設等への理解を深めるサポートを行った。	体験活動等 自主
【社会参加】 若者倶楽部	通年	延べ 299人	大学生世代以上の若者が集まり、まちづくり等の社会参加型事業の担い手として活躍する機会を提供した。	講座、 セミナー、 育成 共催
【社会参加】 学生交流塾	通年	延べ 608人	高校生以上の学生、生徒が学校や学年の垣根を越えて集い、柔軟な発想と軽快なフットワークとチームワークで「まちづくり」、「ボランティア」、「企業コラボ」等の活動を展開し、学生同士の交流を図った。	体験活動等 共催
【社会参加】 社会参加バンク	通年	登録者数 385人	ボランティアや地域イベントのお手伝い等を希望する若者と若者の力を求める団体をつなぎ、若者の社会参加を促進した。 (参加者 59人)	体験活動等 共催
【社会参加】 活動支援事業	通年	延べ 4,841人	青少年団体、若者グループ、高校・大学のゼミ活動・クラブ活動等で、サロン等を活用して自己表現する機会を提供した。	体験活動等 共催
【自立支援】 若者応援事業	通年	延べ 179人	未婚晩婚化やキャリア教育等若者の社会的課題の解決を図り、自立を促す事業を実施した。今年度よりSNSを活用した企業と若者をつなげるキャリア教育も取り入れた。	講座、 セミナー、 育成 共催

【情報発信】 とよた若者応援ネット 『プラス』	通年	—	LINE を活用した個人登録者の登録データと SNS、メールマガジンを活用し、イベント情報、ボランティア情報、婚活情報等、青少年に有益な情報を数多く配信した。	その他	共催
【社会参加】 若者によるまちづくり 提案事業「WAKATTE」	5月～2月	延べ 312人	豊田市の活性化や魅力発信に関する事業等の提案を募集した。審査を行い、2組の提案を採択した。	体験活動等	共催
【社会参加】 高校生 ボランティアスクール	5月～3月	延べ 622人	西三北地区公立高校及び市内私立高校と連携し、高校生がボランティア活動を行う機会を提供し、高校生の社会参加を促した。	講座、 セミナー、 育成	共催
【社会参加】 学生によるまちづくり 提案事業	6月～2月	延べ 382人	学生がまちづくりに関する考え方や手法を学び、企画提案から実現への取組を伴走支援した。	講座、 セミナー、 育成	共催
【居場所づくり】 種まき事業	10月19日 11月9日 12月22日 1月26日	延べ 67人	仲間づくり等若者に関する様々な講座・イベントを開催し、青少年センターを活動拠点としてPRした。(季節の和菓子作り・マグカップ作り&本格コーヒー体験・ハンドクリーム作り)	講座、 セミナー、 育成	共催
【社会参加】 サークル・グループ 文化祭	1月19日	延べ 1,518人	青少年団体に組織する実行委員会が企画運営し、日頃の活動を広く市民へPRし、新規団体及び新メンバーの獲得につなげる機会とし、近隣大学・高校等の若者にも広く参加を呼びかけ、利用促進の機会とした。	体験活動等	共催
【自立支援】 若者未来塾（若者・外国人未来応援事業）	通年 毎週水金曜 隔週土曜	延べ 530人	学力格差による貧困の解消につなげるための学習支援事業を実施した。高等学校卒業程度認定取得を目指した支援を行うとともに、成績不振の中高校生への支援も行った。	講座、 セミナー、 育成	受託
【居場所づくり】 学習・卓球等若者 開放事業	通年	延べ 11,021人	青少年に居場所を提供する事業を実施した。空き室を自主学習や音楽・ダンス・演劇等の自主練習、仲間同士の親睦の場として活用するほか、定期的に卓球器具の貸出し（卓球開放）を行い憩いの機会を提供した。	施設の貸与	受託

【青少年音楽団体の運営及び青少年団体に対する助言その他の支援を行う事業】

事業名	期日	人数	内 容	事業区分
豊田市青少年団体 傷害互助会事業	通年	—	豊田市内の青少年団体の活動を支援するための互助会組織。団体活動中に不慮の事故に遭いけがを負った場合の傷害見舞金の支給。被保険者の過失による活動中の死傷事故及び第三者の財物の損害に対する賠償保険金の支給事業を実施した。 ※会員 33,426 人	その他 自主
豊田市文化振興財団 大会（青少年表彰）	6月	—	青少年健全育成において優れた業績をあげた団体及び功労者を称え表彰を行った。	その他 自主
レクリエーション 団体指導者派遣	通年	—	①レクリエーション指導者団体の情報交換（定例会）を行うとともに、子ども会等へ指導者を派遣し活動支援を行った。 ②青少年サークルをふれあいまつり等地域行事に派遣し、地域活動に若者の力を導入した。 ※①②計 82 回	相談・助言 共催
子ども会事務支援	通年	—	豊田市子ども会育成連絡協議会の事務局として運営を支援し、子ども会活動の活性化に寄与した。	相談・助言 受託

合 計

事業総合計	18事業	20,873人	
-------	------	---------	--

（４）利用実績

青少年センター

施設名	件数	人数	利用内容
会議室・音楽室 ・軽運動室 等	7,553	70,267	会議・研修・バンド練習・ダンス 等

その他

施設名	件数	人数	利用内容
サロン・若者ルーム 等	—	34,142	居場所等

総合計

総合計	7,553	104,409	
-----	-------	---------	--

【総合野外センター】

六所山とその周辺の自然環境の中で、キャンプ、ハイキングそして自然観察などの野外活動を通し、体験、学び、気づきの機会と場を提供して、青少年の健全な育成と指導者の技量向上支援に努めました。

小中学校、青少年団体をはじめ、家族や小グループにも気軽に六所の自然に親しむことができるよう、わかりやすく、安全で使いやすい施設を整備し、安心と達成感そして幸福感のある施設利用を提供しました。

また、豊田市青少年育成施設条例が改正され、それに伴い青少年団体の日帰り利用や家族利用に係る利用拡大を図りました。

（１）事業

この施設の活動に精通した所員による事前打合せや直接指導を通して、教育課程に基づく小中学校の利用や、こども園、子ども会等の利用に込めた目的の達成を支援しました。

野外活動を通して自然環境と向き合うことで、それを理解して「自然との共生」の大切さを感じる体験と、そこにある困難に仲間と協力して対処し「生きる力」を身に付ける体験を実施しました。山遊び初心者から冒険少年まで、それぞれの“わくわく”を満たす事業展開をしました。

（２）施設運営

熱中症、感染症といった近年高まった不安要素と従来からある野外活動の危険要素により、屋外での活動や集団での宿泊といった、施設利用をためらうケースが続いていました。これらのマイナス要因への適切な対処を提案し、安心して施設を利用できる環境を整えました。

自然災害や老朽化により不安全、利用障害となる施設設備の営繕や保全作業に努め、安全で快適な施設利用を担保して、利用者の活動目的達成に貢献しました。

子ども、大人、障がいのある方、外国から来られた方等、あらゆる人が安心して楽しく利用できる施設を目指しました。

市の所管課をはじめ関連する主体との連携を密にし、“安全”、“安心”な野外活動施設を提供しました。また、これら関連主体や利用団体の意見を取り入れ、負担が少なく、より効果的な活動プログラムの開発・提案と、施設の更なる有効活用を進めました。

(3) 事業一覧

※事業区分について：自主－当財団独自の事業、共催－豊田市との共催事業、
受託－豊田市から委託を受けて実施する事業

【青少年育成施設等を活用して、青少年の社会性と豊かな情操を養う機会と場を提供する事業】

事業名	期日	人数	内 容	事業区分
アウトリーチ講座 応援アウトドア	5月18日 5月27日 10月21日 12月8日	228人	他施設を会場に、当センターのプログラムやノウハウを使ったミニ野外活動体験会の実施並びに他施設主催講座の実施及び企画協力に職員を講師として派遣した。	体験活動等 自主
野外活動体験塾	実施なし		不登校やひきこもり、障がいのある青少年の支援団体や保護者グループの野外活動を支援する。	体験活動等 自主
体験学習講座 支援事業	実施なし		青少年健全育成を目的に、野外センターの自然や里山環境を生かした体験活動型の講座、研修会をサポートする。	体験活動等 自主
大学連携事業	9月15～16日 9月27～28日 10月2日 11月30～12月1日 12月25日	50人	自然体験活動や社会教育士資格取得を目指す大学生の実習(県内の大学と共同事業)をサポートした。また実習で大学生が企画したイベントを、大学生と野外センターで共同開催した。	体験活動等 自主
六所山 キャンプクラブ	8月3～4日 3月21日	22人	中学生から大学生までを対象とした野外活動ステップアップ事業。登録キャンプスタッフとの交流・情報交換の場とした。キャンプ技術のレベルアップや指導者養成を実施した。	講座、 セミナー、 育成 自主
保護者のための 野外活動体験会	2月9日	3家族 13人	アウトドア初心者の保護者を対象とした機会の提供し、家族交流支援事業に向けての参加意欲や少年自然体験交流事業への理解を育む体験会を実施した。	体験活動等 自主
キャンプスタッフ プログラム研修会	8月7日 2月4日	12人	共催事業のサポートをする大学生を対象とし、特に安全面を重視した事前研修を行った。	講座、 セミナー、 育成 共催

ファミリーキャンプ	5月 8月 8月 9月	54 家族 212 人	家族向けの施設開放事業として、フリーキャンプの場を提供した。	体験活動等	共催
キャンプスタッフ トレーニング キャンプ	5月12日 7月6～7日 10月5～6日 1月18～19日	83 人	登録キャンプスタッフに必要な知識や技能の獲得、野外活動に対する意欲の向上、キャンプスタッフ間の連携を深める研修会を実施した。	講座、 セミナー、 育成	共催
六所であそぼう	4月27日 7月20日 10月20日 2月16日	183 人	小学校低中学年を対象とした日帰り自然体験事業を実施した。	体験活動等	共催
家族で六所山 day	6月9日 11月10日 1月12日 3月8日	11 家族 36 人 12 家族 43 人 7 家族 29 人 9 家族 33 人	家族向けの日帰り自然体験事業として、家族で手軽に六所を楽しむディキャンプを実施した。	体験活動等	共催
六所でキャンプ	5月25～26日 9月21～22日 12月14～15日	35 人 30 人 25 人	キャンプ体験を通して、野外活動の楽しさや難しさに向き合いながら、自主性や協調性を育むため、小学校中学年から中学生までを対象とした、1泊2日の自然体験事業を実施した。	体験活動等	共催
親子自然体験塾	10月26～27日 12月21～22日	7 家族 27 人 7 家族 29 人	家族で同じテーマ（特に里山や自然に関する）に取り組むことで、家族の絆を深め、感動体験により、自然体験の有意性を体感する機会を提供した。	体験活動等	共催
野外活動体験会 ふらっと六所山	11月17日 3月2日	7 組 26 人 17 組 57 人	施設見学やプログラム体験を通して、青少年団体の指導者がプログラム立案の参考とし、本番の運営を安全でスムーズに行えるように、体験会を実施した。参加者の野外センターへの理解を深め、長期的な利用者増加につながるように努めた。	講座、 セミナー、 育成	共催

チャレンジキャンプ	8月16日 ～18日	24人	2泊3日のチャレンジに富んだプログラムにより、爽快感や達成感、仲間との連帯感を体感。野外活動への意欲を育むため、小学校中学年から中学生までに向けた、ステップアップ事業を実施した。	体験活動 等	共催
【新規】 Enjoy! アウトドア	12月1日	中学生6人 高校生5人	アウトドアを楽しむ機会や仲間との出会いを提供し、キャンプスタッフ(大学生)との世代交流を図るため、中学・高校生を対象とした、日帰り自然体験事業を実施した。	体験活動 等	共催
キャンプ インストラクター 養成講習会	2月22日～ 24日	18人	愛知県キャンプ協会と連携して野外活動の基礎的な知識や技能の実践的な講習を行い、野外活動を支援する指導者の養成講習会を実施した。	講座、 セミナー、 育成	共催
小中学校等 野外活動直接指導	通年	30,309人	こども園、小中学校、青少年団体等の活動支援として、専門知識を有した職員が直接指導を行った。	体験活動 等	受託

合 計

事業総合計	18事業	31,535人	
-------	------	---------	--

(4) 利用実績

施設名	件数	人数	利用内容
自然の家(※)	209	15,220	宿泊研修等
キャンプ場(※)	428	22,977	野外活動等
運動広場	24	6,492	軽スポーツ等
資料館	23	769	動植物標本・民芸資料の展示
多目的ホール	54	3,037	軽スポーツ・雨天時等の活動等
研修室	32	1,741	軽スポーツ・雨天時等の活動等
計	770	50,236	

(※) 豊田市青少年育成施設条例の改正(令和6年4月1日施行)により名称変更

【産業文化センター（とよた科学体験館及び喜楽亭を含む）】

市民の文化活動や中心市街地活性化に向けた取組などの多様な利用者ニーズに対応し、多機能な複合施設としての特色を踏まえた施設運営を目指しました。

また、建築物等適正管理マニュアルに基づく自主点検を定期的の実施し、不具合箇所の早期発見、早期対応に努めました。更に施設の長寿命化・大規模改修工事計画に積極的に関わり、市民にとって、より「安全」・「安心」・「快適」な施設の提供に注力しました。

「とよた科学体験館」は、市の科学教育を担う中心施設として、幼児から青少年や高齢者までの多様な市民が気軽に科学に触れる機会拡充に努めました。教育的な事業のみならず、子どもの声を聴き、皆が体験することによって、誰もが新しい発見と驚きに出会い、日常の中で科学を楽しめる喜びの創出に取り組めました。

また、街中の文化的建造物（国の登録有形文化財）としての認知が高まった「喜楽亭」では、施設の特徴を生かした文化・伝統行事体験事業を実施しました。

（１）事業

とよた科学体験館では、天文・サイエンス・ものづくり事業の分野について、多様な市民ニーズを考慮した多種多様な事業展開を図りました。

天文事業では、プラネタリウムで幅広い年代が楽しめる特別プログラムを随時投映し、宇宙や星空への興味関心を深めました。また、天体望遠鏡を使って街中で気軽に天体を観望する「街中の星見会（まちぼし）」などの開催により、新たな顧客開拓とリピーターの獲得に努めました。

サイエンス事業では、「サイエンススクール」などの事業を通して、関連団体との連携強化を図り、科学を身近に感じ楽しめるよう、最先端科学や注目度の高い分野の講師を招く「サイエンスセミナー」、地元企業の科学技術などを体験するワークショップ「レッツ・エンジョイ・サイエンス」を継続開催しました。

新規事業として、より館内で楽しめるよう展示に職員が生解説をする「発見科学コーナー」サイエンスショーの後に実際に現象を体験する「みんなでサイエンスショー」を開催しました。

喜楽亭では、「喜楽亭茶会」など文化体験事業と地域や家庭での節句行事の意味を学び、飾りやお供えを体験し、人間愛や親子愛を育む「喜楽亭 五節供展」を開催しました。

（２）施設運営

各種入居団体による複数の公共機能を有した複合施設の建物設備全体を包括的に維持管理し、管理経費の節減を図るとともに、施設全体の連絡会議を定期的開催し、情報共有を図りました。また、大規模改修工事に向けて積極的な提案・調整に注力しました。更に中心市街地にある大型施設として、有料駐車場の管理や災害時の帰宅困難者対策への協力を行いました。

(3) 事業一覧

※事業区分について：自主－当財団独自の事業、共催－豊田市との共催事業、
受託－豊田市から委託を受けて実施する事業

【青少年育成施設等を活用して、青少年の社会性と豊かな情操を養う機会と場を提供する事業】

ア 科学体験館事業

事業名	期 日	人 数	内 容	事業区分
こども園アウトリーチ事業	通年	1, 370人	こども園に出向き、園児に科学の不思議をショー形式で紹介した。実験を通して楽しみながら科学への興味を深めた。	体験活動等 自主
ミニワークショップ	通年	19, 166人	短時間でできる科学的要素を取り入れた簡単な工作教室を開催した。	体験活動等 自主
自然科学体験教室	9月14日 9月15日	39人	小学生親子を対象に、自然科学に対する知的好奇心や探求心を育むための宿泊観察教室を開催した。 ※親子12組（1泊2日）	体験活動等 自主
ものづくりフェスタ2024	10月27日	172人	ものづくりフェスタ実行委員会主催のイベントに実行委員の派遣とブースの出展協力をした。	体験活動等 自主
プラネタリウム投映事業	通年	52, 839人	星空解説による本物の星空へのいざないと、迫力のある全天周シミュレーション映像体験を通じて天文や宇宙への興味・関心を深めた。一般・団体・学習などのニーズに対応した解説や全天周番組投映、シミュレーション映像投映を開催した。	体験活動等 受託
サイエンスショー	通年	23, 221人	一般・団体向けに、実験によって科学の原理を紹介する実験ショーを開催した。	体験活動等 受託
ワークショップ	通年	311人	主に小・中学生向けに科学やものづくりの楽しさを体験できる実験・工作教室を開催した。	講座、セミナー、育成 受託
サイエンススクール	通年	313人	中学・高校の科学部等を対象にした学習会を開催し、その成果発表の場として、サイエンスショー発表会（カーニバル）を開催した。	講座、セミナー、育成 受託

展示整備事業	通年	—	展示品の製作検討や既存の展示物の点検・修理を行うため、定期的に展示整備委員会を開催した。	体験活動等	受託
出前天体観測会	6月14日 8月16日 12月6日 2月14日	634人	小学校や交流館に出向き、天文の話や天体望遠鏡による観望会を開催した。 (天候不良のため6回中止)	体験活動等	受託
街中の星見会 「まちぼし」	4月13日 7月13日 8月10日 9月7日 10月12日 11月9日 12月7日 1月11日	534人	天体望遠鏡を使って街中でも気軽に観測できる月や惑星を見る観望会を開催した。 (天候不良のため2回中止)	体験活動等	受託
サイエンスクラブ 初級コース	6月1日 7月13日 9月7日 10月26日 11月30日 1月18日	288人	小学3・4年生向けに、年間を通して、科学全般に関する実験・科学工作の講座を開催した。	講座、 セミナー、 育成	受託
サイエンスクラブ 中級コース	6月15日 6月29日 9月14日 10月5日 11月23日 12月14日	144人	小学5・6年生向けに、年間を通して、科学全般に関する科学実験を中心とした講座を開催した。	講座、 セミナー、 育成	受託
アストロクラブ 初級コース	6月9日 7月14日 10月6日 11月17日 1月12日 2月9日	306人	小学校4年生から6年生までを対象にした天文教室。天文の基礎知識や星座の見付け方などを学ぶ講座を開催した。	講座、 セミナー、 育成	受託
アストロクラブ 中級コース	6月16日 7月21日 9月8日 10月13日 12月8日 1月19日	120人	小学校5年生から中学生までを対象にした天文教室。望遠鏡等の活用の仕方を通して、天文の楽しみ方を学ぶ講座を開催した。	講座、 セミナー、 育成	受託
いろいろプラスネタ リウム	5月19日 11月3日 12月15日	589人	プラネタリウムならではのテーマやタイムリーな話題を取り上げ、幅広い年代向けにライブ感を生かした特別投映を開催した。	体験活動等	受託
サイエンステラス	8月24日 ～25日 11月20日 ～12月3日	158人	科学・ものづくりに関わる大学等の教育機関や団体・個人の科学的分野の活動紹介ブースを開設した。	体験活動等	受託

企画展	7月20日～ 9月1日 2月8日～ 3月2日	—	天文・サイエンス・ものづくりに関連した企画展を開催した。	体験活動等	受託
スペシャルサイエンスショー	5月5日 2月2日	487人	春と秋の大型連休期間に外部講師による特別イベントを開催した。	体験活動等	受託
【新規】 発見科学コーナー	5月25日 2月15日	344人	常設展示より質の高い体験学習を開催した。体験館ならではの物や職員による専門的な解説で当館の魅力を発信した。	体験活動等	受託
【新規】 みんなで！ サイエンスショー	11月24日 1月12日	288人	サイエンスショー後に、ステージで動きや反応を楽しむことができる体験学習を提供した。	体験活動等	受託
学習指導要領発展事業	7月6日	12人	小学4年生から6年生までを対象に、理科の学習指導要領の理解をより深めるためのワークショップを開催した。	講座、 セミナー、 育成	受託
サイエンスセミナー	8月18日	135人	「科学を文化として楽しもうプロジェクト」の一環として「海洋動物ペンギン、サメの生態」について専門家の渡辺佑基氏を講師に招き、講演会を開催した。	講座、 セミナー、 育成	受託
親子天文教室	2月1日	78人	親子を対象に季節の星空や宇宙の話題をわかりやすく紹介するイベントを開催した。	体験活動等	受託
実験観察研修会	9月13日	29人	顕微鏡の上手な使い方や安全な燃焼実験のための注意事項など、実験観察の方法をレクチャーし、理科学習の技術向上を図るための研修会を開催した。	講座、 セミナー、 育成	受託
プラネタリウムコンサート	7月7日	242人	プラネタリウムの星空のもと、星座解説やプロの音楽家の生演奏のコンサートを開催した。	体験活動等	受託
レッツ・エンジョイ・サイエンス	9月8日	65人	「科学を文化として楽しもうプロジェクト」の一環として、地元企業の「中部電力パワーグリッド(株)」を講師に迎え、子どもから大人まで楽しめるワークショップを開催した。	体験活動等	受託
【新規】 発展理科講座	8月10日	11人	多くの年代の市民が参加できる理科実験を使ったワークショップを開催した。	体験活動等	受託

イ 産業文化センター事業

魅力拡大コラボ事業 (喜楽亭・産文)	5月12日 7月14日 9月14日	122人	施設の魅力づくりのために、入居団体や文化団体と協力して、市民が気軽に文化に触れられる機会を提供した。	体験活動等	自主
-----------------------	-------------------------	------	--	-------	----

ウ 喜楽亭事業

喜楽亭 旧暦五節供展 (WS) 展示	4月4日 4月4日～ 4月11日	25人 156人	旧暦の子どもの節句(上巳)に節句人形等の展示と飾り付けや行事食を体験し、行事の意味を学び、親子をはじめ、人と人との絆を深した。	体験活動等	受託
喜楽亭茶会	5月5日 7月7日 3月2日	132人	茶友会と連携し、季節ごとに特色ある茶会や子どもによる茶会を開催した。	体験活動等	受託

合 計

科学体験館 計	28事業	101,895人	
産業文化センター計	1事業	122人	
喜楽亭 計	2事業	313人	
事業 総合計	31事業	102,330人	

(4) 利用件数・人数

施設名	件数	人数	利用内容
小ホール	190	21,550	講演会・発表会
多目的ホール	265	16,927	展示会・研修会・パーティー等
プラネタリウム	716	54,566	学習投映・一般投映等
サイエンスホール	311	173,383	学習見学・一般見学等
喜楽亭	92	4,846	茶会・講座等
その他	4,068	138,330	中日文化センター等
計	5,642	409,602	

令和7年度 事業計画書（青少年部抜粋版）

1 基本方針

青少年の健全な育成の推進

- (1)「第3次公益経営戦略ビジョン」の重点取組施策である「育成段階に応じた事業展開」、「多様な主体との共働の推進」及び「活躍機会の提供」を推進し、青少年の健全育成に取り組みます。
- また、豊田市が取り組んでいるSDGsの目標達成及びユニセフ日本型子どもにやさしいまちづくり事業(CFCI)の取組みを意識した事業展開を図ります。
- 更に、コロナ禍前の賑わいに戻りつつある状況の中、安全安心な施設運営と積極的な事業展開を図ります。
- (2) 青少年センターでは、若者の育成段階に応じた事業体系において「若者の社会参加の促進」、「若者の自立支援」、「居場所づくり」及び「情報発信」の4本柱の事業を推進し、様々な若者をサポートします。また、活動の機会を求める若者の要望に応えるため、1階サロンを、若者の活動発表・作品展示の場として多彩なジャンルのイベントに積極的に活用します。
- (3) 総合野外センターでは、豊田市子ども条例で子どもが豊かに育つ権利として自然に親しむことが保障されていることを特に意識して、六所山とその周辺の自然環境の中での野外活動を通し、遊び、学び、体験の機会と場を提供して、青少年の健全な育成と指導者の技量向上支援に努めます。そのために山遊び初心者から冒険少年まで、それぞれの“わくわく”を満たす事業を実施します。
- (4) 産業文化センター（とよた科学体験館）では、どなたでも気軽に施設へアクセスできるよう、様々な取組により施設への親しみを感じていただく機会提供を推進する「コモンズ プロジェクト」を実施します。また、今後の大規模改修工事について、市と連携を密にして、市民や関係者にとってよりよい施設運営につながるよう進めます。

2 会議

青少年育成委員会

名 称	期日	会 場	内 容
第1回 青少年育成 委員会	5月	青少年センター 会議室	令和6年度事業報告について 令和7年度事業計画について 令和7年度事業視察について ほか
第2回 青少年育成 委員会	9月		令和7年度事業視察について 令和8年度事業計画（案）について ほか

第3回 青少年育成 委員会	2月		令和7年度事業視察について 令和8年度事業計画（案）について ほか
---------------------	----	--	--------------------------------------

3 青少年センター

外部団体や民間事業者との共働など、これまで培ってきた当センターのネットワークを駆使し、様々なステークホルダーや豊田市の部署等と連携を強化することで、若者支援のハブ機能を担う施設を目指し、若者の成長を応援します。

事業面では、育成段階に応じた事業展開を意識し、若者の社会参加や課題解決に向けた取組を支援し、若者や活動団体の積極的な自主活動を促進します。

また青少年育成委員会の事業評価や利用者、参加者及び社会的な各ニーズ並びにSDGsの達成目標を意識した施設運営に努めます。他県、他市の先進的な施設と積極的に交流を行い、当センター全体のレベルアップを図ります。

(1) 事業

「若者の社会参加の促進」、「若者の自立支援」、「居場所づくり」、「情報発信」の4本の柱を中心に事業を実施します。

ア 「若者の社会参加の促進」

意欲段階に応じ、若者が社会に接する機会の創出を行います。

イ 「若者の自立支援」

若者に取り巻く社会課題等に向かい、若者の社会的自立を促します。

ウ 「居場所づくり」

若者に関する様々な講座等を実施し、青少年センターを居場所とする若者を増やします。

エ 「情報発信」

ボランティアの募集や各種イベント・事業・フリー開放（空き部屋活用）など、若者に有益な情報をSNS及びホームページを使って配信します。

(2) 施設運営

自主定期点検マニュアルに基づいた施設管理をはじめ、公共施設に必要な訓練の実施、利用者ニーズを把握する利用者懇談会・アンケートの実施等、常に安全・安心・快適な利用環境の提供を目指し、効率的な管理運営でサービスの向上に努めます。また、災害や事故に備えた危機管理意識を持ち、異常の早期発見・早期対処など予防保全に努めるなど、日常管理の積み重ねを安定的で使いやすい施設運営につなげます。

(3) 事業一覧

※事業区分について：自主－当財団独自の事業、共催－豊田市との共催事業、
受託－豊田市等から委託を受けて実施する事業

【青少年育成施設等を活用して、青少年の社会性と豊かな情操を養う機会と場を提供する事業】

事業名	期日	人数	内 容	事業区分
【社会参加】 インターンシップ事業	夏期・春期	延べ 50人	豊田市及び近郊の高校・大学と連携し、就業体験等を通じて働くことや公共施設等への理解を深めるサポートを行う。 ※各回5人×5日間×2回	体験活動等 自主
【社会参加】 若者倶楽部	通年	420人 定例会 15人×12月 ×2回 イベント 30人×2回	大学生世代以上の若者が集まり、まちづくり等の社会参加型事業の担い手として活躍する機会を提供する。	講座、 セミナー、 育成 共催
【社会参加】 学生交流塾	通年	330人 定例会 10人×12月 ×2回 イベント 30人×3回	高校生以上の学生、生徒が学校や学年の垣根を越えて集い、柔軟な発想と軽快なフットワークとチームワークで「まちづくり」、「ボランティア」、「企業コラボ」等の活動を展開し、学生同士の交流を図る。	体験活動等 共催
【社会参加】 社会参加バンク	通年	登録者数 400人	ボランティアや地域イベントのお手伝い等を希望する若者と若者の力を求める団体をつなぎ、若者の社会参加を促進する。	体験活動等 共催
【社会参加】 活動支援事業	通年	2,500人	青少年団体、若者グループ、高校・大学のゼミ活動・クラブ活動等で、サロン等を活用して自己表現する機会を提供する。	体験活動等 共催
【自立支援】 若者応援事業	通年	延べ 200人	未婚晩婚化やキャリア教育等若者の社会的課題の解決を図り、自立を促す事業を実施する。また、企業と若者をつなげるキャリア教育も取り入れる。	講座、 セミナー、 育成 共催
【情報発信】 とよた若者応援ネット 『プラス』	通年	—	LINEを活用した個人登録者の登録データとSNSを活用し、イベント情報、ボランティア情報、婚活情報等、青少年に有益な情報を数多く配信する。	その他 共催
【社会参加】 若者によるまちづくり 提案事業「WAKATTE」	5月～2月	—	豊田市の活性化や魅力発信に関する事業等の提案を募集する。審査を行い、提案実施支援金50万円を上限に提案を採択する。	体験活動等 共催
【社会参加】 高校生 ボランティアスクール	5月～3月	延べ 1,100人	市内高校と連携し、高校生がボランティア活動を行う機会を提供し、高校生の社会参加を促す。	講座、 セミナー、 育成 共催

【社会参加】 学生によるまちづくり 提案事業	6月～2月	延べ 168人	学生がまちづくりに関する考 え方や手法を学び、企画提案から 実現への取組を伴走支援する。 6団体（1団体4人）×7回	講座、 セミナー、 育成	共催
【居場所づくり】 種まき事業	年3回	延べ 60人	仲間づくり等若者に関する様々 な講座・イベントを開催し、青 少年センターを活動拠点として PRする。	講座、 セミナー、 育成	共催
【社会参加】 サークル・グループ 文化祭	1月	2,000人 (内訳) 参加者 200人 来館者 1,800人	青少年団体が組織する実行委員 会が企画運営し、日頃の活動を 広く市民へPRし、新規団体及 び新メンバーの獲得につなげる 機会とする。また、近隣大学・高 校等の若者に広く参加を呼びか け、利用促進の機会とする。	体験活動 等	共催
【自立支援】 若者未来塾（若者・外 国人未来応援事業）	通年 毎週水金曜 隔週土曜	延べ 200人	学力格差による貧困の解消につ なげるための学習支援事業。 高等学校卒業程度認定取得を目 指した支援を行うとともに、成 績不振の中高校生への支援も行 う。	講座、 セミナー、 育成	受託
【居場所づくり】 学習・卓球等若者 開放事業	通年	20,000 人	青少年に居場所を提供する事 業。 空き室を自主学習や音楽・ダン ス・演劇等の自主練習、仲間同 士の親睦の場として活用するほ か、定期的に卓球器具の貸出し （卓球開放）を行い、憩いの機 会を提供する。	施設の貸 与	受託

【青少年音楽団体の運営及び青少年団体に対する助言その他の支援を行う事業】

事業名	期日	人数	内 容	事業区分
豊田市青少年団体 傷害互助会事業	通年	—	豊田市内の青少年団体の活動を支援するための互助会組織。 団体活動中に不慮の事故に遭いけがを負った場合の傷害見舞金の支給。被保険者の過失による活動中の死傷事故及び第三者の財物の損害に対する賠償保険金の支給。 ※会員25,000人	その他 自主
豊田市文化振興財団 大会（青少年表彰）	6月	—	青少年健全育成において優れた業績をあげた団体及び功労者を称え表彰する。 青少年育成功労賞、青少年育成奨励賞 ※各賞5個人又は団体	その他 自主
レクリエーション 団体指導者派遣	通年	—	①レクリエーション指導者団体の情報交換（定例会）を行うとともに、子ども会等へ指導者を派遣し活動支援を行う。 ②青少年サークルをふれあいまつり等地域行事に派遣し、地域活動に若者の力を導入する。 ※①②計100回	相談・助言 共催
子ども会事務支援	通年	—	豊田市子ども会育成連絡協議会の事務局として運営を支援し、子ども会活動の活性化に寄与する。	相談・助言 受託

合 計

事業総合計	18事業	27,428人	
-------	------	---------	--

（４）利用予定

青少年センター

施設名	件数	人数	利用内容
会議室・音楽室 ・軽運動室 等	7,000	62,000	会議・研修・バンド練習・ダンス 等

その他

施設名	件数	人数	利用内容
サロン・若者ルーム 等	—	30,000	たまり場等

総合計

総合計	7,000	92,000	
-----	-------	--------	--

4 総合野外センター

六所山とその周辺の自然環境の中で、キャンプ、ハイキングそして自然観察などの野外活動を通し、遊び、学び、体験の機会と場を提供して、青少年の健全な育成と指導者の技量向上支援に努めます。

小中学校、青少年団体をはじめ、家族や小グループにも気軽に六所の自然に親しむことができるよう、わかりやすく、安全で使いやすい施設を整備し、安心と達成感そして幸福感のある施設利用を提供します。

また、令和6年の豊田市青少年育成施設条例改正により、青少年団体や家族利用ができるようになりました。これまでの団体利用の継続と、新たな利用拡大を推進します。

(1) 事業

この施設の活動に精通した所員による事前打合せや直接指導を通して、教育課程に基づく小中学校の利用や、こども園、子ども会等の利用に込めた目的の達成を支援します。

野外活動を通して自然環境と向き合うことで、それを理解して「自然との共生」の大切さを感じる体験と、そこにある困難に仲間と協力して対処し「生きる力」を身に付ける体験を実施します。山遊び初心者から冒険少年まで、それぞれの“わくわく”を満たす事業展開をします。

(2) 施設運営

近年問題となっている熱中症や従来からある野外活動の危険要素により施設利用をためらうケースが増加しています。これらのマイナス要因への適切な対処を提案し、安心して施設を利用できる環境を整えます。

自然災害や老朽化により、利用障害となる施設設備の営繕や保全作業に努め、安全で快適な施設利用を担保して、利用者の活動目的達成に貢献します。

子ども、大人、障がいのある方、外国から来られた方等、あらゆる人が安心して楽しく利用できる施設を目指します。

市の所管課をはじめ関連する主体との連携を密にし、“安全”、“安心”な野外活動施設を提供します。また、これら関連主体や利用団体の意見を取り入れ、負担が少なく、より効果的な活動プログラムの開発・提案と、施設の更なる有効活用を進めます。

(3) 事業一覧

※事業区分について：自主－当財団独自の事業、共催－豊田市との共催事業
受託－豊田市から委託を受けて実施する事業

【青少年育成施設等を活用して、青少年の社会性と豊かな情操を養う機会と場を提供する事業】

事業名	期日	人数	内 容	事業区分
体験学習講座 支援事業	年 3 回	4 5 人	野外センターの自然や里山環境を活かした体験活動型の講座、研修会をサポートする。 ※各回 1 5 人	体験活動等 自主
大学連携事業	6 月～ 3 月	1 0 人	自然体験活動や社会教育士資格取得を目指す大学生の実習(県内の大学と共同事業)をサポートする。また実習で大学生が企画したイベントを、大学と共同開催する。	体験活動等 自主
アドベンチャー in 六所	1 1 月	2 0 人	中日文化センターとの連携事業。アドベンチャーレーサー「田中正人」氏を迎え、ロッククライミングなどの体験会を行う。 ※ 1 0 組 2 0 人	講座、セミナー、育成 自主
アウトリーチ講座 応援アウトドア	年 3 回	4 5 人	当センターのプログラムやノウハウを使ったミニ野外活動体験会や講座などに、職員を講師として派遣します。 ※各回 1 5 人	体験活動等 共催
野外活動体験塾	年 3 回	3 0 人	不登校やひきこもり、障がいのある青少年の支援団体や保護者グループの野外活動を支援する。 ※各回 1 0 人	体験活動等 共催
六所であそぼう	4 月 1 0 月 2 月	1 3 2 人	小学校低中学年を対象とした日帰り自然体験事業を実施。自然の中での遊びを通して、野外活動に親しむ感覚を育む。 ※全 3 回 各回 4 4 人	体験活動等 共催
六所でキャンプ	5 月 9 月 1 2 月	1 0 8 人	小学校中学年から中学生までを対象とした、宿泊の自然体験事業。キャンプ体験を通して野外活動の楽しさや難しさに向き合いながら、自主性や協調性を育む。 ※全 3 回 各回 3 6 人	体験活動等 共催
親子自然体験塾	7 月 1 2 月	5 4 人	自然体験を深めたい家族を対象とした事業。「自然」や「里山」をテーマにしたアクティビティを通じて、感動や喜びを共有し、家族のきずなを深める。 ※全 2 回 各回 9 家族 2 7 人	体験活動等 共催

チャレンジキャンプ	8月	36人	小学校中学年から中学生に向けた、ステップアップ事業。長期キャンプで、仲間や困難とじっくり向き合う時間を創出。連帯感や達成感を味わうことにより、忍耐力と自己肯定感を育む。 ※全1回	体験活動等	共催
Enjoy! アウトドア	12月	20人	中学・高校生を対象とした、日帰り自然体験事業。アウトドアを楽しむ機会や仲間との出会いを提供する。キャンプスタッフとの世代交流を図る。 ※全1回	体験活動等	共催
山の子学級	1月～3月	108人	小学校中学年から中学生に向けたレベルアップ事業。仲間との継続的な活動、長期スパンを活かした計画により、自ら考える時間を創出。仲間や自然への愛着、野外活動の企画や運営などへの興味の芽生えを育む。 ※各回36人	体験活動等	共催
高校生ボランティアスクール	5月～3月	110人	青少年センター事業「高校生ボランティアスクール」の野外センターコースを実施する。キャンプ場の仕事を体験する場を提供する。 ※各回10人	講座、セミナー、育成	共催
森の音楽会・森と絵本	10月 11月	90人	自然体験への導入事業。「自然」をテーマにした音楽会や絵本の読み聞かせと、会場となる環境の相乗効果により、五感を刺激。豊かな感性を育む。 ※各回15家族45人	体験活動等	共催
六所山キャンプクラブ	8月 3月	20人	中学から大学生を対象に、野外活動の継続を期待する声に応える事業。希望者でグループを作り、キャンプを計画。技術の向上や指導者養成の入門編として実施。 ※各回10人	講座、セミナー、育成	共催
キャンプスタッフプログラム研修会	年2回	16人	共催事業のサポートをする大学生を対象に、特に安全面を重視した事前研修を行う。 ※各回8人	講座、セミナー、育成	共催
キャンプスタッフトレーニングキャンプ	5月 7月 9月 10月 1月	200人	キャンプスタッフに必要な知識や技能を獲得するとともに、野外活動に対する意欲向上を図る。また、キャンプスタッフ間の連携を深める。 ※各回40人	講座、セミナー、育成	共催

キャンプ インストラクター 養成講習会	2月	30人	愛知県キャンプ協会と連携して野外活動の基礎的な知識や技能の実践的な講習を行い、野外活動を支援する指導者を養成する。 ※全1回	講座、 セミナー、 育成	共催
小中学校等 野外活動直接指導	通年	7,700人	こども園、小中学校、青少年団体等の活動支援として、専門知識を有した職員が直接指導を行う。	体験活動 等	受託

合 計

事業総合計	18事業	8,774人	
-------	------	--------	--

(4) 利用予定

施設名	件数	人数	利用内容
自然の家	200	8,000	宿泊研修等
キャンプ場	400	15,000	野外活動等
運動広場	25	5,500	軽スポーツ等
資料館	25	750	動植物標本・民芸資料の展示
多目的ホール	50	2,800	軽スポーツ・雨天時等の活動等
研修室	35	1,700	軽スポーツ・雨天時等の活動等
計	735	33,750	

5 産業文化センター（とよた科学体験館及び喜楽亭を含む。）

市民の心の豊かさや幸福の追求と合理的配慮の視点を取り入れ、あらゆる市民に開かれた施設を目指します。また、文化活動や中心市街地活性化に向けた取組などの多様な利用者ニーズに対応し、多機能な複合施設としての特色を踏まえた施設運営を行います。

施設面では長寿命化改修工事に向けて、市との調整を緊密に取り組みます。更に建築物等適正管理マニュアルに基づく自主点検を定期的の実施し、不具合箇所の早期発見、早期対応に努め、「安全」・「安心」・「快適」な施設の提供に注力します。

とよた科学体験館は、市の科学教育を担う中心施設として、幼児から青少年や高齢者までの多様な市民が気軽に科学に触れる機会拡充に努めます。教育的な事業のみならず、こどもの声を聴き、皆が体験することによって、誰もが新しい発見と驚きに出会い、日常の中で科学を楽しめる喜びの創出に取り組みます。

また、文化的建造物（国の登録有形文化財）である喜楽亭では、施設の特徴を生かした文化・伝統行事体験事業を実施します。

（1）事業

新規事業として、産業文化センター・科学体験館・喜楽亭へ、どなたでも気軽に施設へアクセスできるよう、館内の掲示物や配布物、事業チラシ等の優しい日本語化や多言語化、合理的配慮の他、様々な取組により施設への親しみを感じていただく機会提供を推進する「コモンズプロジェクト」を実施します。

科学体験館では、天文・サイエンス・ものづくり事業において、市民ニーズを考慮した多種多様な事業展開を図ります。

天文事業では、幅広い年代が楽しめる特別プログラムとして「いろいろプラスネタリウム」などの開催により、新たな顧客開拓とリピーターの獲得に努めます。

サイエンス事業では、最先端科学や注目度の高い分野の講師を招く「サイエンスセミナー」や、地元企業の科学技術などを体験するワークショップ「レッツ・エンジョイ・サイエンス」を開催し、次世代を担うこども達がサイエンスやものづくりへの好奇心、モチベーションを向上させる機会を提供します。

喜楽亭では、施設の特性を活かした「喜楽亭茶会」を開催し、市民の文化体験の機会を提供するとともに、文化的建造物の認知を高めます。

（2）施設運営

長寿命化改修工事に向けて、利用者の視点で市当局との調整に注力します。また、複数の公共機能を有した複合施設の建物設備全体を包括的に維持管理し、管理経費の節減を図るとともに、施設全体の連絡会議を定期的を開催し、情報共有を図ります。更に中心市街地にある大型施設として、有料駐車場の管理や災害時の帰宅困難者対策への協力を行います。

(3) 事業一覧

※事業区分について：自主－当財団独自の事業、共催－豊田市との共催事業、
受託－豊田市から委託を受けて実施する事業

【青少年育成施設等を活用して、青少年の社会性と豊かな情操を養う機会と場を提供する事業】

ア 科学体験館事業

事業名	期日	人数	内 容	事業区分
【新規】 社会包摂推進事業 コモンズ プロジェクト (体験館・産文・喜楽亭)	通年	—	科学体験館、産業文化センター、喜楽亭すべての業務を対象とし、館内の掲示物や配布物、事業チラシなどの優しい日本語化や多言語化、障がい者の事業参加への配慮、どなたでも気軽に来館できる機会の提供による創客を推進し、その成果を市民へ情報発信する。	体験活動等 自主
こども園アウトリーチ事業	通年	750人	こども園に出向き、園児に科学の不思議をショー形式で紹介する。実験を通して楽しみながら科学への興味を深める。 ※50人×15園	体験活動等 自主
ミニワークショップ	通年	15,000人	短時間でできる科学的要素を取り入れた簡単な工作教室を開催する。	体験活動等 自主
自然科学体験教室	9月27日 9月28日	40人	小学生親子を対象に、自然科学に対する知的好奇心や探求心を育むための宿泊観察教室を開催する。 ※親子12組(1泊2日)	体験活動等 自主
ものづくりフェスタ2025	10月19日	120人	ものづくりフェスタ実行委員会主催のイベントに実行委員の派遣とブースの出展協力をする。	体験活動等 自主
プラネタリウム投映事業	通年	30,000人	星空解説による本物の星空へのいざないと、迫力のある全天周シミュレーション映像体験を通じて天文や宇宙への興味・関心を深める。一般・団体・学習などのニーズに対応した解説や全天周番組投映、シミュレーション映像投映を開催する。	体験活動等 受託
サイエンスショー	通年	15,000人	一般・団体向けに、実験によって科学の原理を紹介する実験ショーを開催する。	体験活動等 受託
ワークショップ	通年	200人	主に小・中学生向けに科学やものづくりの楽しさを体験できる実験・工作教室を開催する。 ※20人×10回	講座、セミナー、育成 受託

サイエンススクール	通年	200人	中学・高校の科学部等を対象にした学習会を開催し、その成果発表の場として、サイエンスショー発表会（カーニバル）を開催する。	講座、 セミナー、 育成	受託
展示整備事業	通年	—	展示品の製作検討や既存の展示物の点検・修理を行うため、定期的に展示整備委員会を開催する。	体験活動 等	受託
出前天体観測会	年10回	500人	小学校や交流館に出向き、天文の話や天体望遠鏡による観望会を開催する。 ※50人×10回	体験活動 等	受託
街中の星見会 「まちぼし」	4月5日 5月10日 8月1日 8月30日 10月4日 11月1日 12月13日 1月24日 2月21日 3月21日	500人	天体望遠鏡を使って街中でも気軽に観測できる月や惑星を見る観望会を開催する。 ※50人×10回	体験活動 等	受託
サイエンスクラブ 初級コース	6月7日 7月12日 9月9日 11月1日 12月20日 1月24日	288人	小学3・4年生向けに、年間を通して、科学全般に関する実験・科学工作の講座を開催する。※24人×6回×2部（午前・午後）	講座、 セミナー、 育成	受託
サイエンスクラブ 中級コース	6月14日 6月28日 10月18日 10月25日 11月22日 12月13日	144人	小学5・6年生向けに、年間を通して、科学全般に関する科学実験を中心とした講座を開催する。 ※24人×6回	講座、 セミナー、 育成	受託
アストロクラブ 初級コース	6月8日 8月2日 9月21日 11月16日 1月11日 2月14日	300人	小学校4年生から6年生までを対象にした天文教室。天文の基礎知識や星座の見付け方などを学ぶ講座を開催する。 ※50人×6回	講座、 セミナー、 育成	受託
アストロクラブ 中級コース	6月15日 7月13日 9月14日 10月5日 12月14日 1月25日	120人	小学校5年生から中学生までを対象にした天文教室。望遠鏡等の活用の仕方を通して、天文の楽しみ方を学ぶ講座を開催する。 ※20人×6回	講座、 セミナー、 育成	受託
【新規】 科学ふらっときかく 展	年4回	—	天文、サイエンス等に関する様々な資料を展示したり体験することにより、気軽に科学に触れる機会を増やし関心を高める。	体験活動等	受託

いろいろプラネタリウム	年3回	360人	プラネタリウムならではのテーマやタイムリーな話題を取り上げ、幅広い年代向けにライブ感を生かした特別投映を開催する。 ※120人×3回	体験活動等	受託
スペシャルサイエンスショー	年2回	280人	春と秋の大型連休期間に外部講師による特別イベントを開催する。 ※70人×2回×2日	体験活動等	受託
発見科学コーナー	年2回	—	常設展示より質の高い体験学習を開催する。体験館ならではの物や職員による専門的な解説で当館の魅力を発信する。	体験活動等	受託
みんなで！サイエンスショー	年2回	200人	サイエンスショー後に、ステージで動きや反応を楽しむことができる体験学習を提供する。	体験活動等	受託
学習指導要領発展事業	年1回	12人	小学4年生から6年生までを対象に、理科の学習指導要領の理解をより深めるためのワークショップを開催する。	講座、セミナー、育成	受託
サイエンスセミナー	年1回	150人	「科学を文化として楽しもうプロジェクト」の一環として、最先端科学の研究者や注目度の高い技術分野の専門家を講師に招き、講演会を開催する。 (会場：小ホール予定)	講座、セミナー、育成	受託
親子天文教室	年1回	100人	親子を対象に季節の星空や宇宙の話題をわかりやすく紹介するイベントを開催する。	体験活動等	受託
プラネタリウムコンサート	年1回	240人	プラネタリウムの星空のもと、星座解説やプロの音楽家の生演奏のコンサートを開催する。 ※120人×2回	体験活動等	受託
レッツ・エンジョイ・サイエンス	年1回	50人	「科学を文化として楽しもうプロジェクト」の一環として、地元企業の科学技術やタイムリーな科学テーマに関する技術者を指導講師に迎え、子どもから大人まで楽しめるワークショップを開催する。 (会場：多目的ホール予定)	体験活動等	受託
発展理科講座	年1回	12人	多くの年代の市民が参加できる理科実験を使ったワークショップを開催する。	体験活動等	受託

イ 喜楽亭事業

喜楽亭茶会	5月4日 10月5日 2月28日	360人	茶友会と連携し、季節ごとに特色ある茶会や子どもによる茶会を開催する。	体験活動等	受託
-------	------------------------	------	------------------------------------	-------	----

合 計

とよた科学体験館 計	27事業	64,566人	
喜楽亭 計	1事業	360人	
事業 総合計	28事業	64,926人	

(4) 利用予定

施設名	件数	人数	利用内容
小ホール	200	20,000	講演会・発表会
多目的ホール	270	20,000	展示会・研修会・パーティー等
プラネタリウム	750	50,000	学習投映・一般投映等
サイエンスホール	320	150,000	学習見学・一般見学等
喜楽亭	150	10,000	茶会・講座等
その他	4,400	150,000	中日文化センター等
計	6,090	400,000	

令和7年度 重点取組事業

1 青少年センター

(1) 活動支援事業

●目的・内容

青少年団体、若者グループ、高校・大学のゼミ活動・クラブ活動等で、サロン等を活用して自己表現する機会を提供する。

●期日・対象

通年／39歳までの若者延べ2,500名

(2) 若者応援事業

●目的・内容

未婚晩婚化やキャリア教育等若者の社会的課題の解決を図り、自立を促す事業を実施する。また、企業と若者をつなげるキャリア教育も取り入れる。

●期日・対象

通年／39歳までの若者延べ200名

(3) 学生によるまちづくり提案事業

●目的・内容

学生がまちづくりに関する考え方や手法を学び、企画提案から実現への取組を伴走支援する。

●期日・対象

6月～2月／学生延べ168名

(4) サークル・グループ文化祭

●目的・内容

青少年団体で組織する実行委員会が企画運営し、日頃の活動を広く市民へPRし、新規団体及び新メンバーの獲得につなげる機会とする。また、近隣大学・高校等の若者に広く参加を呼びかけ、利用促進の機会とする。

●期日・対象

1月／一般延べ2,000名

(5) 種まき事業

●目的・内容

仲間づくり等若者に関する様々な講座・イベントを開催し、青少年センターを活動拠点としてPRする。

●期日・対象

通年／39歳までの若者延べ60名

2 野外センター

(1) 六所でキャンプ【宿泊】

- 目的・内容

1泊2日のキャンプ体験を通して、野外活動の楽しさや難しさに向き合いながら、自主性と協調性を育む。

- 期日・対象

年3回（5月・9月・12月）／小学校4年生～中学校3年生・各36名

(2) チャレンジキャンプ【宿泊】

- 目的・内容

2泊3日のステップアップ事業。3日間の時間を効果的に使ったチャレンジに富んだプログラムにより、爽快感や達成感、仲間との連帯感を体感する。野外活動への興味、取り組む意欲を育む。

- 期日・対象

年1回（8月）／小学校4年生～中学校3年生・36名

(3) Enjoy! アウトドア【日帰り】

- 目的・内容

中学生・高校生の事業参加機会とアウトドア体験の場を提供する。キャンパススタッフ（大学生）との世代間交流も行い、アウトドアの魅力を体験と交流を通して体感し、野外活動への興味を深める。

- 期日・対象

年1回（11月）／中学生・10名

年1回（11月）／高校生・10名

(4) 親子自然体験塾【宿泊】

- 目的・内容

自然体験を積み自然の良さを知る活動を通し、家族の大切さや協力の必要を体感する。季節ごとの野外活動を体験し、施設の魅力や楽しさを味わう。

- 期日・対象

年2回（7月・12月）／小中学校に在学する児童生徒とその家族・各9家族

(5) 森の音楽会・森と絵本【日帰り】

- 目的・内容

自然体験への導入事業として、「自然」をテーマにした音楽や絵本の読み聞かせと会場になる環境（野外）の相乗効果により、五感を刺激し感性を育む。

- 期日・対象

年2回（10月・11月）／ 幼児を含む家族・各15家族

3 産業文化センター

(1) 社会包摂推進事業 コモンズプロジェクト 科学体験館/産業文化センター/喜楽亭共通

●目的・内容

すべての市民に開かれ、集い・共有できる空間（コモンズ）を目指し、誰も排除しない取組を推進することで、共生社会や合理的配慮実現の機運を高め、市民に良い環境や経験を提供し、施設の理解者や協力者、将来の顧客を育成すると共に、お互いが尊重されウェルビーイングな状態の市民を増やし、住みよいまちづくりに貢献する。

●期日・対象

通年（モニタリング対象は12月～1月 イルミネーション点灯式）／一般

(2) いろいろプラネタリウム

●目的・内容

プラネタリウムならではのテーマやタイムリーな話題を取り上げ、幅広い年代向けにライブ感を生かした特別投影を開催する。

●期日・対象

令和7年5月18日ほか 全3回／一般・各120名

(3) 発見科学コーナー

●目的・内容

常設展示より質の高い体験学習を展開する。体験館ならではの物や職員による専門的な解説で当館の魅力を発信する。

●期日・対象

令和7年5月24日・令和8年2月14日／一般

(4) サイエンスセミナー

●目的・内容

「科学を文化として楽しもうプロジェクト」の一環として、最先端科学の研究者や注目度の高い技術分野の専門家を講師に招き、講演会を開催する。

●期日・対象

令和7年7月6日／小学生以上150名

(5) みんなで！サイエンスショー

●目的・内容

サイエンスショー後に、ステージで動きや反応を楽しむことができる体験学習を提供する。

●期日・対象

令和7年6月22日・令和8年1月25日／一般・各100名

令和７年度 モニタリング事業

1 趣旨

主催事業をご視察いただき、客観的な立場からの評価やご意見ご助言により、今後の事業の企画や運営に役立てるために行います。

2 モニタリング事業

委員１人につき、年間２以上のモニタリングをお願いします。

次ページにある施設側が評価をいただきたい事業を中心としますが、一覧以外の事業（令和７年度事業計画書を参照）も可とします。また、後期モニタリング事業については、第２回委員会時にモニタリング事業をお知らせします。

事業の評価は、第２回または第３回の委員会時にご報告いただきます。

3 申込み・問合せ等

基本は、委員会事務局の青少年センターとしますが、総合野外センターや産業文化センターの事業に関しては、日程調整や詳細等の問合せもあるので、直接やり取りいただいても構いません。

4 評価書の提出

基本は、青少年センターとしますが、総合野外センターや産業文化センターでも構いません。

評価書の様式は、担当者からデータまたは紙でお渡しします。

5 担当者と連絡先

●青少年センター（担当：近藤・松浦）

①電話／0565-32-6296

②Eメール／youth@city.toyota.aichi.jp

●総合野外センター（担当：山中・山村）

①電話／0565-58-1388

②Eメール／toyota-yagai-center@city.toyota.aichi.jp

●産業文化センター（担当：荘田・中根）

①電話／0565-33-1531

②Eメール／sanbun@city.toyota.aichi.jp

令和 7 年度モニタリング事業一覧（前期）

（R 7 . 5 . 1 1 現在）

番号	施設	事業名	開催日	ページ
1	青少年	種まき事業「ミライのためのマネー講座知って得するお金のはなし」	6月15日（日） 午後1時30分～午後3時30分	P.4
2	青少年	若者によるまちづくり提案事業 WAKATTE	6月29日（日） 午後1時～午後5時	P.5
3	青少年	学生によるまちづくり提案事業	7月19日（土） 午前10時～午後3時	P.6
4	野外センター	親子自然体験塾①	7月5日（土）～6日（日）	P.7
5	野外センター	キャンプスタッフトレーニング キャンプ②	7月12日（土）～13日（日）	P.8
6	野外センター	チャレンジキャンプ	8月14日（木）～17日（日）	P.9
7	野外センター	六所でキャンプ②	9月20日（土）～21日（日）	P.10
8	産文C	いろいろプラスネタリウム①	5月18日（日）	P.11
9	産文C	科学発見コーナー①	5月24日（土）	P.12
10	産文C	サイエンスセミナー	7月6日（日）	P.13
11	産文C	アストロクラブ初級②	8月2日（土）	P.14
12	産文C	ワークショップ（外部講師） 「micro:bitを使ったロボットを作ろう」	8月16日（土）	P.15

モニタリング予定

委員名	一覧番号	上記以外の事業
宇井 委員		
大村 委員		
斉藤 委員		
白川 委員		
西本 委員		
野畑 委員		
稗田 委員		

モニタリング事業（候補施設）

委 員	青少年 C	野外 C	産業文化 C 科学体験館
宇井委員			○
大村委員	○	○	○
斉藤委員	○	○	
白川委員	○		
西本委員			○
野畑委員	○	○	
稗田委員	○	○	

※可能であれば、○印が付いている施設の事業について、モニタリングをお願いします。
ただし、日程等、都合が悪い場合は、別の施設で構いません。

※2回以上モニタリングする場合は、特に指定はしませんので希望する施設（事業）
のモニタリングをお願いします。

ただし、年4回まででお願いします。

令和7年度 モニタリング事業 概要

事業名	種まき事業「ミライのためのマネー講座知って得するお金のはなし」			施設名	青少年センター
事業区分	形態別	☐ 受託 ☒ 共催（共催：豊田市） ☐ 自主			
開催日時	令和7年6月15日（日）午後1時30分～午後3時30分				
開催会場	青少年センター他				
対象	高校生～25歳			定員	20人
予算 (事業全体)	内 訳	金 額	主な用途		合 計 163,000 円
	市費負担分	123,000 円	講師料、印刷費		
	参加者負担分	40,000 円	消耗品費、保険料		
	財団負担分	円			
	そ の 他	円			
事業のねらい (目 的)	まずは気軽に参加できる内容にすることで、青少年センターを知ってもらい、利用者の新規拡大を目指す。				
事業の内容	・ お金に関する疑問や不安を解消し、将来のために知っておきたい具体的な金融知識を学ぶ。 ・ ライフプランを考えるきっかけとする。				
事業の 広報・PR	・ 広報とよた5月号 ・ 財団各施設チラシ配布 ・ 市内高校と県内大学にチラシ配布 ・ SNS による PR				
重点視察項目	・ 参加者同士が交流できているか ・ 青少年センターに引き続き興味を持ってもらえるようになっているか				
特記事項					

令和7年度 モニタリング事業 概要

事業名	若者によるまちづくり提案事業 WAKATTE		施設名	青少年センター
事業区分	形態別	☐ 受託 ☒ 共催（共催：豊田市） ☐ 自主		
開催日時	令和7年6月7日（土）～令和8年3月8日（日）			
開催会場	青少年センター他			
対象	豊田市で活動している18歳～35歳		定員	－人
予算 （事業全体）	内 訳	金 額	主な用途	合 計 790,000 円
	市費負担分	790,000 円	事業実施委託費	
	参加者負担分	円		
	財団負担分	円		
	そ の 他	円		
事業のねらい （目 的）	若者が自らの強みや意欲を生かした社会参加企画を提案し、多様で多世代の人と関わりながら実現することによって、思考力や判断力等の生き抜く力を育み、地域社会の担い手として成長すること。			
事業の内容	まちと関わる社会参加企画の提案を若者団体から募集し、審査を行った上で、採択された団体が企画の実現を図る。			
事業の 広報・PR	・広報とよた4月号 ・財団各施設チラシ配布 ・市内中心に県内大学のまちづくり関係学部やゼミにチラシ配布 ・市内の青年団体（社会人の団体）へチラシ配布 ・SNSによるPR			
重点視察項目	採択された若者団体が自らの強みや意欲を生かした社会参加企画を提案できているか。			
特記事項	・2次審査（プレゼン）をモニタリングしていただきたい。 ・2次審査は6月29日（日）午後1時～午後5時で、1次審査（6月7日実施）通過者のみプレゼンを実施する。 ・企画の開催日時、会場、対象、定員については、2次審査終了、委託契約締結後、確定する。			

令和7年度 モニタリング事業 概要

事業名	学生によるまちづくり提案事業			施設名	青少年センター
事業区分	形態別	☐ 受託 ☒ 共催（共催：豊田市） ☐ 自主			
開催日時	令和7年7月5日（土）～ 令和8年3月15日（日）				
開催会場	青少年センターほか				
対象	高校生以上の学生			選考	約30人
予算 （事業全体）	内 訳	金 額	主な用途		合 計 1,307,000 円
	市費負担分	1,307,000 円	・ コーディネート業務委託料 ・ 学生提案実施委託料		
	参加者負担分	円			
	財団負担分	円			
	そ の 他	円			
事業のねらい （目 的）	・ 学生の好きなことや得意なことと、まちづくりをつなげ、事業を通して学生につくり出すことの楽しさを体感してもらう。 ・ 企画の実現に向けて、他の学生や地域の人と協働することで、学生の自己成長や社会参画につなげる。				
事業の内容	・ まちの賑わいづくり、豊田市の PR に繋がる企画の実施。				
事業の 広報・PR	・ 広報とよた 5 月号掲載 ・ 財団施設へのチラシ配布 ・ 市内外の高校と大学、及びゼミへチラシ配布 ・ ホームページや SNS での広報				
重点視察項目	・ 学生が主体となって企画が考えられているか ・ 参加者同士、協力して取り組んでいるか				
特記事項	・ 研修 2 回目の企画案ブラッシュアップ研修（7 月 19 日（土）午前 10 時～午後 3 時、交流室）をモニタリングしていただきたい。				

令和7年度 モニタリング事業 概要

事業名	親子自然体験塾①			施設名	総合野外センター
事業区分	形態別	☐ 受託 ☒ 共催（共催：豊田市） ☐ 自主			
開催日時	令和7年7月5日（土）10：00 ～ 6日（日）15：00				
開催会場	豊田市総合野外センター				
対象	市内在住の小中学生を含む家族			定員	9 家族
予算 （事業全体）	内 訳	金 額	主な用途		合 計 106,000 円
	市費負担分	25,000 円	全体活動用品		
	参加者負担分	81,000 円	食事、シーツ代、教材費、通信費、保険代		
	財団負担分	円			
	そ の 他	円			
事業のねらい （目 的）	・ 野外センターの自然に親しみ、食事や会話など楽しい時間を過ごしたり、課題や作業に取り組むことで家族の絆を深める。 ・ 家族間の交流を図り、子どもが様々な世代の人とふれあう機会を提供する。				
事業の内容	・ 家族で里山や自然がテーマの体験プログラムにチャレンジする。初夏の自然観察(動植物)をしたり、草木染めを体験する。 ・ R7.3 月に完成した C 炊事棟のピザ窯でピザ焼き体験をする。 ・ 自然の家の宿泊室を利用して、家族単位で宿泊する。				
事業の 広報・PR	・ ホームページ ・ 広報とよた ・ 電子チラシ(小中学校) ・ 事業参加者へのチラシ配布				
重点視察項目	・ 親子の共同作業や参加者間の交流の場面が創出できているか。 ・ 自然観察や草木染めなど、自然を楽しむプログラムとなっているか。 ・ 家族の活動を尊重するなど、スタッフの対応は適切か。				
特記事項	・ 年間2回、自然のテーマを変え単独事業として開催。 ・ 親子自然体験塾② 12月20日（土）～21日（日）予定				

令和7年度 モニタリング事業 概要

事業名	キャンプスタッフ・トレーニングキャンプ②			施設名	総合野外センター
事業区分	形態別	☐ 受託 ☒ 共催（共催：豊田市） ☐ 自主			
開催日時	令和7年7月12日（土）10：00 ～ 13日（日）15：00				
開催会場	豊田市総合野外センター				
対象	大学生			定員	40人
予算 （事業全体）	内 訳	金 額	主な用途		合 計 110,000 円
	市費負担分	10,000 円	全体活動用品		
	参加者負担分	100,000 円	食事代、シーツ代、教材費、通信費、保険代		
	財団負担分	円			
	そ の 他	円			
事業のねらい （目 的）	・ キャンプスタッフに必要な知識や技能及び指導方法のノウハウを獲得する。 ・ 活動に対する意欲の向上を図る。 ・ キャンプスタッフ間の連携を深める。				
事業の内容	・ 利用団体の活動内容で、指導の必要のあるものの研修を中心に実施する。5回に分けて、野外炊事・かまどの使い方・火おこし器・炭火おこし・アスレチック・オリエンテーリング・キャンプファイヤー(井桁組・ファイヤーキーパー・エールマスター・ゲームリーダー)・クラフト工作・五平もち作り・もちつき等の研修を実施。最終回では、次年度の事業プランの提案を行う。 ・ トレキャン②では、学校キャンプのテント泊の指導（上記網掛け）を中心に実施する。				
事業の 広報・PR	・ ホームページ ・ 現役スタッフからの紹介 ・ 知人からの紹介				
重点視察項目	・ 安全に対する配慮は十分か。服装や態度は適切か。 ・ 意欲的に参加できているか。スタッフ同士の交流・連携はできているか。 ・ 子どもに分かりやすい話し方で説明しているか。 ・ 本人が楽しそうに活動しているか。				
特記事項	・ トレーニングキャンプ① 5月10日(土)～11日(日)予定 ・ トレーニングキャンプ③ 9月7日(日)予定 ・ トレーニングキャンプ④ 10月5日(日)予定 ・ トレーニングキャンプ⑤ 1月10日(土)～11日(日)予定				

令和7年度 モニタリング事業 概要

事業名	チャレンジキャンプ			施設名	総合野外センター
事業区分	形態別	☐ 受託 ☒ 共催（共催：豊田市） ☐ 自主			
開催日時	令和7年8月14日（木） 10：00 ～ 17日（日） 15：00				
開催会場	豊田市総合野外センター				
対象	市内の小学4年生～中学3年生			定員	36人
予算 （事業全体）	内 訳	金 額	主な用途		合 計 388,000 円
	市費負担分	100,000 円	全体活動用品		
	参加者負担分	288,000 円	食事代、シーツ代、教材費、通信費、保険代		
	財団負担分	円			
	そ の 他	円			
事業のねらい （目 的）	・長期キャンプにより、仲間や困難とじっくり向き合う時間を創出する。 ・集団生活の中で、連帯感や達成感を味わうことにより、忍耐力と自己肯定感を育む。				
事業の内容	・3泊4日のキャンプを通じて、仲間と課題を解決する体験活動を行う。 ※事業内容の詳細は未定				
事業の 広報・P R	・ホームページ ・広報とよた ・電子チラシ(小中学校) ・事業参加者へのチラシ配布				
重点視察項目	・宿泊キャンプの発展事業として、企画の内容は適切か。 ・子どもたちが仲間と協力して、活動に取り組んでいるか。 ・子どもたちが、問題解決に取り組むための手だては有効か。 ・子どもたちが自然と向き合い、親しむことができているか。 ・子どもの安全に配慮した活動を行っているか。				
特記事項					

令和7年度 モニタリング事業 概要

事業名	六所でキャンプ②			施設名	総合野外センター
事業区分	形態別	☐ 受託 ☒ 共催（共催：豊田市） ☐ 自主			
開催日時	令和7年9月20日（土） 10：00 ～ 21日（日）15：00				
開催会場	豊田市総合野外センター				
対象	市内在住の小学4年生～中学3年生			定員	36人
予算 （事業全体）	内 訳	金 額	主な用途		合 計 74,000 円
	市費負担分	21,000 円	全体活動用品		
	参加者負担分	53,000 円	食事代、シーツ代、教材費、保険代、通信費		
	財団負担分	円			
	そ の 他	円			
事業のねらい （目 的）	・キャンプ体験を通して、野外活動の難しさに向き合いながら、自主性や協調性、野外活動への意欲を育む。				
事業の内容	・1泊2日のキャンプを実施する。 ・R7.1月に開催した、キャンプスタッフトレーニングキャンプ⑤（六所でキャンプ企画立案・事業プレゼン）にて採択された内容を、4月からブラッシュアップを行い実施する。（テント設営、野外炊事、ドラム缶風呂などを予定）				
事業の 広報・PR	・ホームページ ・広報とよた ・電子チラシ(小中学校) ・事業参加者へのチラシ配布				
重点視察項目	・宿泊キャンプの入り口事業として、企画の内容は適切か。 ・キャンプスタッフは適切に、活動の運営を行えているか。 ・子どもたちが自然と向き合い、楽しむことができているか。 ・子どもの安全に配慮した活動を行っているか。				
特記事項	・六所でキャンプ① 5月3日（土）～5日（日） ・六所でキャンプ③ 12月6日（土）～7日（日）予定				

令和7年度 モニタリング事業 概要

事業名	いろいろプラスネタリウム① 「星と音楽がめぐり逢うとき」			施設名	豊田産業文化センター (とよた科学体験館)
事業区分	形態別	☒ 受託 ☐ 共催 (共催：豊田市) ☐ 自主			
開催日時	令和7年 5月18日 (日) 昼の部 14:30~15:30 夜の部 17:30~18:30				
開催会場	とよた科学体験館プラネタリウム				
対象	小学生以上 (未就学児不可)			定員	各回 120 人
予算 (事業全体)	内 訳	金 額	主な用途		合 計 310,000 円
	市費負担分	310,000 円	演奏者謝礼 (231,000 円) 音響操作手数料 (60,000 円) 等		
	参加者負担分	(120,000) 円	チケット 500 円×120 人×2 回 ※全額市へ納入		
	財団負担分	円			
	そ の 他	円			
事業のねらい (目 的)	プラネタリウムならではのテーマやタイムリーな話題を取り上げ、幅広い年代向けにライブ感を活かした特別投映を開催する。				
事業の内容	豊田市ジュニアオーケストラ卒団生 (令和6年度豊田文化新人賞受賞者含む) による弦楽カルテットの生演奏と星空のコラボレーション ※星空解説あり				
事業の 広報・PR	・ 事業チラシ (財団各施設・館内配布) ・ 当館の HP、LINE@登録者 ・ 広報とよた				
重点視察項目	・ 演奏とプラネタリウム (星空の話題) の調和がとれているか ・ プラネタリウムの特性を活かした演出がされているか ・ スムーズな進行内容であったか				

令和7年度 モニタリング事業 概要

事業名	発見科学 コーナー①「さわってみよう！世界中からやってきた特別な石展」			施設名	豊田産業文化センター (とよた科学体験館)
事業区分	形態別	☒ 受託 ☐ 共催 (共催：豊田市) ☐ 自主			
開催日時	令和7年5月24日(土) 10:00~10:50 および 13:30~14:20				
開催会場	とよた科学体験館 パフォーマンスステージ				
対象	どなたでも			定員	※特になし 人
予算 (事業全体)	内 訳	金 額	主な用途		合 計 15,000 円
	市費負担分	15,000 円	道具等消耗品		
	参加者負担分	0 円			
	財団負担分	0 円			
	そ の 他	0 円			
事業のねらい (目 的)	来館者へ、常設の展示より質の高い、科学体験を提供する。 科学館ならではの機材を使うほか、職員による専門的な解説を行うことで、科学館としての魅力を発信する。				
事業の内容	すべての展示物に触ることができることをテーマに、世界各地の石の展示を行う。鉱石、石材、溶岩、化石、砂などを準備予定。日本の石も展示する。 ほかの体験として、石を叩いて音を聞く、砂鉄を集める、軽石を水に浮かべるなどを予定。				
事業の 広報・PR	・事業チラシ(財団各施設・館内配布) ・当館のHP、LINE@登録者 ・広報とよた				
重点視察項目	・興味を持たせた体験学習となっているか ・体験した参加者の様子 ・参加者とのスタッフ(職員)との対話				
特記事項					

令和7年度 モニタリング事業 概要

事業名	サイエンスセミナー 「全然知らなかった虫のこと -アリに飼われて 15 年目-」			施設名	豊田産業文化センター (とよた科学体験館)
事業区分	形態別	■受託 □共催（共催： ） □自主			
開催日時	令和 7 年 7 月 6 日（ 日 ） 14：30～16：00				
開催会場	豊田産業文化センター 小ホール				
対 象	小学生以上			定 員	150 人
予 算 (事業全体)	内 訳	金 額	主な用途		合 計 158,000 円
	市費負担分	158,000 円	謝礼、ホール会場使用料ほか		
	参加者負担分	(45,000) 円	300 円×150 人=45,000 円 ※全額市へ納入		
	財団負担分	円			
	そ の 他	円			
事業のねらい (目 的)	「科学を文化として楽しもうプロジェクト」の一環として、最先端科学の研究者や注目度の高い技術分野の専門家を講師に招き、講演会を開催する。				
事業の内容	自然科学において人気のある「昆虫」をテーマに、黒木 出 氏（岡山理科大学基盤教育センター所属）を講師に招いて、昆虫たちがもつ厳しい環境を乗り越えるための力、適応のメカニズム解明についての講演会を開催する。 (内容は小学生高学年～一般)				
事業の 広報・PR	・ 事業チラシ（財団各施設・館内配布） ・ 当館のHP、LINE@登録者 ・ 広報「とよた」				
重点視察項目	・ 講演内容は親近感が沸き、わかりやすいか ・ 聴講者の年齢層や知的好奇心との調和は取れているか ・ 参加者の様子				
特 記 事 項	関連企画：科学ふらっと企画展「多様にひろがる昆虫展～昆虫標本や生体がやってくる！～」(7月6日（日）～20日（日）) も同時開催。				

令和7年度 モニタリング事業 概要

事業名	アストロクラブ初級②「夏の星空観望会」			施設名	豊田産業文化センター (とよた科学体験館)
事業区分	形態別	■受託 □共催（共催：豊田市） □自主			
開催日時	令和7年 8月 2日（土）19：00～20：30 頃				
開催会場	とよた科学体験館プラネタリウム、産業文化センター屋外				
対 象	小学4年生～6年生			定 員	50 人
予 算 (事業全体)	内 訳	金 額	主な用途		合 計 41,000 円
	市費負担分	41,000 円	名札・ファイル等消耗品		
	参加者負担分	(15,000) 円	300 円×50 人（6 回分） ※全額市へ納入		
	財団負担分	0 円			
	そ の 他	0 円			
事業のねらい (目 的)	学校や家庭ではなかなか体験できない天文に興味を持つきっかけを提供する。				
事業の内容	小学校4年生から6年生までを対象にした天文教室。天文の基礎知識や星座の見付け方などを学ぶ講座を開催する。年間6回開催。 年2回（夏および冬）星空観望会を行う。				
事業の 広報・PR	・事業チラシ（財団各施設・館内配布） ・当館のHP、LINE@登録者 ・広報とよた				
重点視察項目	・子どもたちのレベルにあった内容であるか。 ・本物の星空を観察した参加者の様子 ・参加者と講師およびスタッフ（職員）との対話				
特記事項					

令和7年度 モニタリング事業 概要

事業名	ワークショップ（外部講師） 「micro:bit を使ったロボットを作ろう」			施設名	豊田産業文化センター （とよた科学体験館）
事業区分	形態別	■受託 □共催（共催：豊田市） □自主			
開催日時	令和7年8月16日（土）9：00～12：00 および 13：30～16：30				
開催会場	とよた科学体験館ワークショップルーム				
対象	小学5年生～中学生			定員	各回6人
予算 （事業全体）	内 訳	金 額	主な用途		合 計 92,000 円
	市費負担分	92,000 円	講師謝礼および材料費		
	参加者負担分	(36,000) 円	参加費 3,000 円×12 人 ※全額市へ納入		
	財団負担分	0 円			
	そ の 他	0 円			
事業のねらい （目 的）	主に小・中学生向けに科学やものづくりの楽しさを体験できる実験・工作教室を開催する。子どもたちにロボット製作を通してものづくりに興味を持つきっかけを提供し、思考力・創造力・集中力を身に付ける。				
事業の内容	自動運転やライトレースができるロボットの製作（電子工作含む）とプログラムの説明。作ったロボットは持ち帰り可。				
事業の 広報・P R	・ 事業チラシ（財団各施設・館内配布） ・ 当館の HP、LINE@登録者 ・ 広報とよた				
重点視察項目	・ 興味を持たせる内容になっているか ・ 内容の理解度や参加者の様子 ・ 参加者との講師との対話				
特記事項	講師：豊田少年少女発明クラブ 和田清高氏				

令和７年度 豊田市文化振興財団 青少年表彰受賞者一覧

（５０音順）

【豊田青少年育成功労賞】（受賞枠は５者以内）

おおむね１０年以上にわたる篤志奉仕活動により、豊田市の青少年健全育成に貢献し、優れた業績をあげた個人又は団体

木戸 公子（きど きみこ）

６０歳 豊田市活動拠点

木村 勉（きむら つとむ）

６０歳 豊田市在住

田浦 武英（たうら たけひで）

６０歳 豊田市在住

特定非営利法人

育て上げネット中部虹の会（そだてあげねつとちゅうぶにじのかい）

平成１７年設立 豊田市活動拠点

豊田市ものづくりサポーター（とよたしものづくりさぽーたー）

平成１９年設立 豊田市活動雄拠点

（トータル ５４個人・１１団体）

【豊田青少年育成奨励賞】（受賞枠は５者以内）

おおむね５年以上にわたる篤志奉仕活動により、豊田市の青少年健全育成に貢献し、優れた業績をあげ、将来が嘱望される個人又は団体

太田 陽子（おおた ようこ）

５４歳 豊田市在住

林 美恵（はやし みえ）

５４歳 豊田市活動拠点

（トータル ３０個人・１７団体）

表彰式 令和７年６月１日（日）午後３時 豊田市民文化会館 大ホール

木戸 公子

【受賞理由】

平成 8 年豊田地区みよし第 1 団ビーバースカウト隊隊長に就任以来、カブスカウト隊副長、隊長として平成 23 年まで活躍し、ビーバースカウト、カブスカウトの育成に尽力し、地区内でもスカウト数の多い団へと成長させた。

平成 24 年から団委員、平成 25 年から副団委員長として、団内の指導者の育成と団組織の充実に貢献し、地区内では模範となる団に成長させた。

みよし第 1 団の成果を評価し、令和 3 年から豊田地区組織拡充委員会副委員長に就任し、組織拡充委員会の充実と地区内各団の募集活動、団組織の拡充に貢献した。

【主な功績】

●指導者歴

平成 8 年(1996)	みよし第 1 団ビーバースカウト隊隊長就任
平成 19 年(2007)	みよし第 1 団カブスカウト隊副長就任
平成 21 年(2009)	みよし第 1 団カブスカウト隊隊長就任
平成 24 年(2012)	みよし第 1 団 団委員就任
平成 25 年(2013)	みよし第 1 団 副団委員長就任（～現在）

●地区役員歴

令和 3 年(2021)	ボーイスカウト豊田地区組織拡充委員会副委員長（～現在）
--------------	-----------------------------

●その他

平成 8 年(1996)	ボーイスカウト指導者講習会修了
--------------	-----------------

木村 勉

【受賞理由】

平成 20 年から現在まで 17 年間にわたり、とよた科学体験館事業「ワークショップ」の講師として、小学生から中学生までを対象に、プログラミング、ロボット、ドローン、AI など最先端の技術をわかりやすく教授した。

また、科学体験館のみならず、豊田少年少女発明クラブやとよたスーパーJr.サイエンスクラブなどで講師を行い、子どもたちにもものづくりの楽しさを伝えた。

【主な功績】

平成 2 年(1990)	豊田工業高等専門学校 着任
平成 3 年(1991)	障がい者総合福祉会館サン・アビリティーズ豊田で利用者向けパソコン教室講師（～平成 8 年）
平成 14 年(2002)	豊田少年少女発明クラブ指導員（～平成 24 年）
平成 20 年(2008)	とよた科学体験館 ワークショップ講師（～現在）
平成 27 年(2015)	とよたスーパーJr.サイエンスクラブ I 講師（～現在）
平成 30 年(2018)	猿投台交流館 こどもフェスタ イベント講師

田浦 武英

【受賞理由】

平成 18 年から豊田市子ども会育成連絡協議会西保見小学校区理事に就任し、平成 19 年から 2 年間保見地区幹事に就任した。

その後、総務委員会委員長、平成 24 年から副会長、平成 31 年から会長に就任、令和 6 年から上部役員に就任し、現在に至っている。

長年にわたり総務委員会委員長・総務担当副会長として、広報誌「とよたの子ども」の発行や年度当初の子ども会の受付業務等に携わり、子ども会の発展に寄与した。

【主な功績】

平成 18 年(2006)	豊田市子ども会育成連絡協議会 西保見小学校区 理事
平成 19 年(2007)	豊田市子ども会育成連絡協議会 保見地区 幹事（～平成 20 年）
平成 21 年(2009)	豊田市子ども会育成連絡協議会 総務委員会 委員長（～平成 23 年）
平成 24 年(2012)	豊田市子ども会育成連絡協議会 副会長（～平成 30 年）
平成 31 年(2019)	豊田市子ども会育成連絡協議会 会長（～令和 5 年）
〃	豊田市文化振興財団青少年育成委員会 委員（～令和 6 年）
令和 6 年(2024)	豊田市子ども会育成連絡協議会 上部役員（～現在）

特定非営利法人育て上げネット中部虹の会

【受賞理由】

平成 17 年 12 月に法人化し、西三河を中心にニート・引きこもり等の若者をサポートした。平成 21 年 4 月から豊田市若者自立支援相談事業を豊田市より受託、平成 23 年からは豊田市青少年センターと共催で自立支援講座を開催した。

令和 2 年から「親の居場所」と「自立支援学習会」を定期開催し、豊田市をはじめとした西三河の若者の支援に努めた。また各所での若者の自立に関する講演会を実施した。

【主な功績】

平成 14 年(2002)	ひきこもりの子と、その親のための自助グループとして「虹の会」設立
平成 17 年(2005)	特定非営利法人育て上げネット中部虹の会設立
平成 20 年(2008)	安城サポートステーションを受託 西三河の若者相談事業開始
平成 21 年(2009)	豊田市若者自立支援相談事業を豊田市より受託。豊田市青少年センターにて月 4 回相談業務開催
平成 23 年(2011)	自立支援相談会を月 6 回程度に拡大 豊田市青少年センターと共催で自立支援講座を開催（～平成 27 年 3 月）
平成 25 年(2013)	西三北地区高等学校生徒指導研究会教育相談部会 講演 パルクとよた公開セミナー
平成 26 年(2014)	豊田市家庭教育手帳親ノート冊子を作製・発行し、 小・中学生の家庭に配布
平成 27 年(2015)	豊田市若者サポートステーション開設 豊田市青少年センター内に相談・居場所事業開設 同時に月 1 回家族連絡会を実施
令和 2 年(2020)	「親の居場所」と「自立支援学習会」定期的開催
令和 6 年(2024)	豊田市若者サポートステーション事業を一般社団法人 パーソナルラボに移譲（3 月）

●その他

とよた男女共同参画センター、とよた子どもの権利相談室との連携相談の実施

豊田市ものづくりサポーター

【受賞理由】

豊田市内の小学校に出向き、学習課程の中で自然・科学・技（匠）を体験できるものづくり授業を実施し、ものづくり体験が乏しい子どもたちに寄り添いながら、様々なものづくりを教えている。発足から 18 年目を迎え、時代や各学校の教育目標と調和させながら、系統적かつ本格的なものづくり教育に長期にわたり尽力している。

また、とよた科学体験館の整備委員として、定期的に展示物の製作や整備を行い、子どもたちが安全で身近に不思議な現象を体験し、科学への興味関心を引き出すための製作物づくりに尽力している。

【主な功績】

平成 19 年(2007)	ものづくりサポーターの募集・運営
平成 20 年(2008)	豊田市の小学校 10 校で教育プログラムをモデル実施・検証
平成 21 年(2009)	豊田市教育プログラムを希望する各小学校へと拡大 平成 21 年は 13 校で実施（～現在）
〃	ものづくりフェスタに出展し、ものづくりの楽しさを伝えている。（～現在）
平成 22 年(2010)	科学体験館整備委員として、科学体験館の展示物の製作、製作物等の修繕、サイエンスショーに使用する実験装置を製作している。整備委員会を月 1 回、製作物の修繕、製作を月 1 回実施。1 年で 24 回実施（～現在）
〃	サポーターの自主活動として親子ものづくり講座を実施。その他、図書館の夏の工作会イベントの講師としてサポーターを派遣。親子でものづくりの楽しさを実感できる講座を毎年実施（～現在）
令和 5 年(2023)	井郷交流館、猿投台交流館のイベントに参加。シャボン玉づくりを実施

太田 陽子

【受賞理由】

平成 3 年ガールスカウト愛知県第 112 団ブラウニーリーダーとして活動を開始する。現在もレンジャーリーダーとしてスカウトの育成に尽力している。前身のガールスカウト三河北地区の事業は、教育活動委員として企画や運営に携わり手腕を発揮した。

また令和 2 年・3 年度の 2 年間は教育活動委員長として責務を果たした。今後もスカウト活動の推進者としての活動が期待される。

【主な功績】

平成 3 年(1991)	ガールスカウト愛知県第 112 団ブラウニーリーダー
平成 13 年(2001)	ガールスカウト三河北地区 30 周年記念 伊良湖キャンプの企画・運営を担う
平成 22 年(2010)	ガールスカウト日本連盟 VIVA90 周年事業の引率リーダーとして参加
平成 24 年(2012)	ガールスカウト三河北地区事業 冬プロの企画・運営を担う（～平成 26 年）
平成 28 年(2016)	ガールスカウト愛知県連盟 60 周年記念 戸隠キャンプ引率リーダーとして参加
令和 2 年(2020)	ガールスカウト三河北地区 教育活動委員長（～令和 3 年）
令和 3 年(2021)	ガールスカウト三河北地区 50 周年記念キャンプの企画・運営を担う

●その他

平成 3 年(1991)	ガールスカウト ブラウニー部門リーダー 取得
平成 4 年(1992)	ガールスカウト ジュニア部門リーダー 取得
平成 5 年(1993)	ガールスカウト シニア部門リーダー 取得
平成 9 年(1997)	ガールスカウト レンジャー部門リーダー 取得
平成 26 年(2014)	ガールスカウト テンダーフット部門リーダー及びガールスカウトリーダー取得

林 美恵

【受賞理由】

平成 24 年カブスカウト隊デンリーダーに就任し、以来カブスカウト隊指導者としてカブスカウトの指導をした。現在もカブスカウト隊副長を務め、スカウトの育成に貢献した。

また、令和 5 年からボーイスカウト豊田地区副コミッショナーに就任し、地区内カブスカウト部門指導者の育成に尽力している。今後も地区運営と指導者のけん引役として期待される。

【主な功績】

●指導者歴

平成 24 年(2012)	みよし第 2 団カブスカウト隊デンリーダー就任
平成 28 年(2016)	みよし第 2 団ボーイスカウト隊副長就任
平成 31 年(2019)	みよし第 2 団カブスカウト隊副長就任（～現在）

●地区役員歴

令和 5 年(2023)	ボーイスカウト豊田地区副コミッショナー就任（～現在）
--------------	----------------------------

●指導者研修歴

平成 23 年(2011)	ボーイスカウト講習会修了
平成 29 年(2017)	ウッドバッジ研修所スカウトコース修了
令和 4 年(2022)	ウッドバッジ実修所カブスカウト課程修了
令和 5 年(2023)	コミッショナーベーシックトレーニング修了